公山城(熊津城)(世界遺産)(大韓民国忠清南道公州市)(霊隠寺)

公山城（コンサンソン、韓国語：공산성）は、大韓民国忠清南道公州市郊外の山に築かれた百済時代の山城。

概要

公州市街と錦川に隣接する山に築かれた周囲長約 2,660m の城壁に囲まれた山城。復元された城壁内には世祖 4 年（1458 年）に創建された霊隠寺がある。

百済の首都が熊津（ウンジン、現在の公州）であった時代の山城であり、文周王が 475 年（文周王元年）に漢城（現在のソウル）から遷都した際に建造、その後 538 年（聖明王 16 年）に扶余に遷都するまで 64 年間に渡り、王都の防衛設備であった。熊津城とも呼ばれる。

北側を錦川に隣接し、東西に 800m、南北に 400m の長方形をなしている。高麗時代より「公山城」と呼ばれるようになった。従来は土城だったが、李氏朝鮮の宣祖、仁祖時代に石城に改築された。

城内には、錦西楼、鎮南楼、拱北楼、双樹亭、明国三将碑、双樹山城史跡碑、霊隠寺、蓮池、挽河楼、臨流閣、光復楼等の建造物、石碑がある。

Wikipedia による